



祐介の目

No.103

大田祐介 (福山市議会議員)

またこの間の子供の学習機会の喪失はいつ挽回するのか。この調子だと夏休み返上だろう。子供の命が第一とは言え、子供のコロナ感染率は非常に低く、仮に感染しても重症化する例は少

コロナ一斉休校

コロナウイルス蔓延により、先行きの見えない状況、気の滅入るような不安を多くの市民が感じていることと思う。特に飲食業や観光業は大きな痛手を負っているが、まずは感染拡大をいかに抑え込むのが第一だろう。その一環として学校の一斉休校が決まった。実は多くの議員が早く休校にするべきとの意見を市民から寄せられていた。結局4月15日から一斉休校となったが、教育委員会の決断は遅すぎるとの批判も多かった。

しかし、この措置により女性の割合の多い職場、特に医療・福祉施設で子供を置いて出勤できなくなる職員が発生し、それでなくてもコロナ対策で人手が足りない状況に拍車をかけている。結局、施設内に児童クラブを設けて面倒を見てるのが実態だ。さらに給食が無くなったことにより納入業者は苦境に立たされ、親は弁当を作る手間が増えた。

ないとの中国の例が報告されている。子供電話相談には友達に会いたいとか、親と長時間一緒に過ごすことが苦痛、さらには家庭内暴力といった切実な問題が多く寄せられているようだ。運動不足にもなるだろうし、本でも読もうと思っても図書館は閉まっている。子供のストレス増加も悩ましい問題だ。

大学等ではオンライン講義等も始まっているが、小中学校では難しい。やはり学校という空間・居場所の重要性を鑑み、早期に学校再開に向けてどのような取り組みが必要か検討しなければならぬ。その答えは我々大人が感染を拡大しないという事に尽きる。さらにかねてより問題視されていた学校の4月入学を、この際世界標準である9月入学とし、就職も9月に改編してはどうか。災い転じて福となすという発想も必要だ。皆で知恵を出し合って「ONE TEAM」の難局を乗り越えたいものだ。